

# 健康な生活で医療費の増加を防ぎましょう

問 保険給付課国民健康保険担当 ☎ 6051

会社員などが加入する社会保険や共済組合とは別に、自営業や農業など、勤務先の健康保険に加入していない人の医療を保障する制度が国民健康保険(国保)です。国保は、加入している被保険者からの保険料と、国や県の負担金などを財源として、県と県内市町村が運営しています。

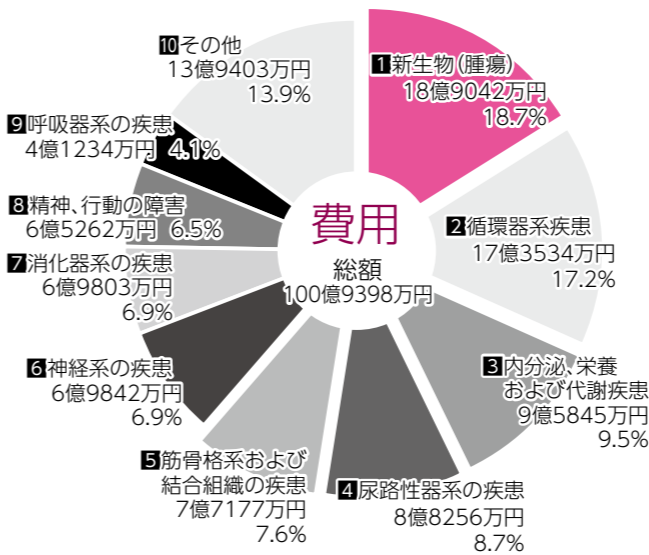
規則正しい生活や適度な運動、健康診査を受けることで、健康的な生活を送り、医療費の増加を防ぎましょう。 **大崎市国保の医療費** 令和2年度の診療報酬明細書(レセプト)から大崎市国保の医療費を見ると、総額で約100億9398万円で

医療費の疾患別割合で上位5つの疾患は、肺・大腸・胃がんなどの「新生物(腫瘍)」、高血圧症や狭心症などの「循環器系疾患」、糖尿病や脂質異常症の「内分泌、栄養および代謝疾患」、慢性腎不全や腎炎などの「尿路性器系疾患」、関節リウマチや神経痛などの「筋骨格系および結合組織の疾患」で約

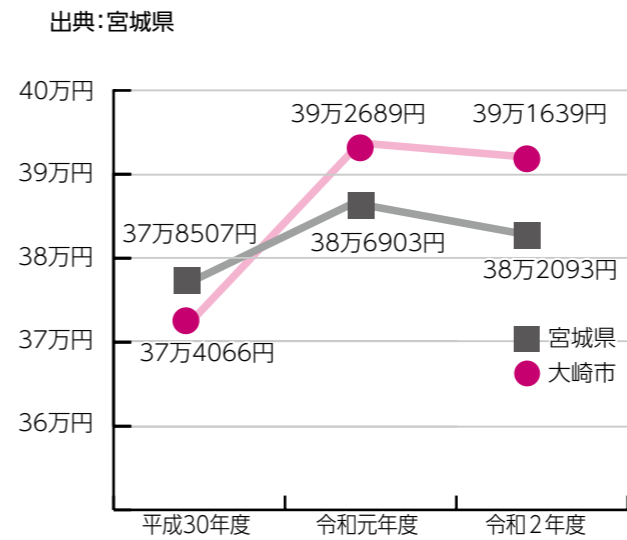
62億4千万円となります。(図1) 大崎市国保の令和2年度における1人当たりの医療費は約39万円となり、前年度と比較して約千円の減少となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの人が医療機関での受診を控えた時期があったことが要因と考えられます。

ただし、令和3年度は医療費が増加傾向となつていきます。健康寿命の延伸や医療費の適正化の観点から、生活習慣病の予防・健康づくりが重要となっています。 **健康な生活で医療費の増加を防ぎましょう** 生活習慣病の重症化や医療費の増加を防ぐために、食事や日常の生活習慣を見直し、適度な運動を行うことなどで健康な生活を心がけましょう。 また、定期的に健康診査や各種がん検診などを受け、疾病の早期発見・早期治療に努めましょう。

■疾患別費用割合(図1) 資料:レセプトデータ(大崎市) ※費用額は1万円未満を四捨五入しています。



■一人当たりの医療費の平均額(図2)



疾病の予防・健康づくりは少しの意識の積み重ねが大切です



## コロナ禍を乗り越え、希望に満ちた一年を願って 令和4年 大崎市新年のつどい



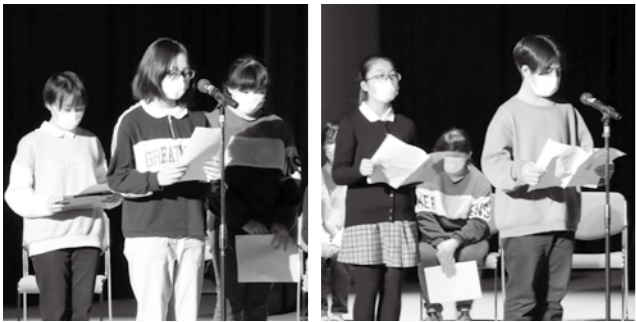
▲「第14回宝の都(くに)・活性化貢献賞」の受賞者

### 「第14回宝の都(くに)・活性化貢献賞」の受賞団体と活動内容

大崎市三本木ひまわり交流協会	横浜市港南区との交流事業へ参加するなど、本市の観光PR事業を積極的に展開。
鹿島台歴史研究会	鹿島台地域の歴史全般の研究成果、旧鹿島台村長鎌田三之助翁の偉業など、ボランティアガイドにより広める活動を展開。
岩出山地域内公共交通運営委員会	需要に応じた地域内の公共交通の確保や、利用客の利便性の向上を目的に、乗り合い交通を運行。
田尻まちづくり協議会	新春講演会・賀詞交歓会・青少年意見発表会など、住民と行政の協働による地域自治活動を実施。



▲アフターコロナと大崎市の魅力について、意見を交わした新春トークセッション



▲趣向を凝らしたアイデアを発表した児童(左・鬼首小学校、右・田尻小学校)



▲最後には伊藤市長、パタ崎さんと一緒に記念撮影

**第14回おおさき子どもサミット2021発表会** 昨年11月25日に、西古川小学校で開催された「第14回おおさき子どもサミット2021」の参加校を代表し、鬼首小学校と田尻小学校が、「語り合おう大崎市の今、夢、未来」をテーマに、パネルディスカッションした内容を発表しました。 鬼首小学校は、温泉と遊園地を合体した施設「鳴子スパランド」の構想などを発表しました。また、田尻小学校は、市の名産品などを組み合わせ

たキャラクター「グリリン」の制作を提案しました。 **新春トークセッション** おおさき宝大使の高泉淳子氏、宮城大学教授の郷古雅春氏、伊藤市長の3人で、「アフターコロナと大崎市の魅力」をテーマに、大崎耕土の多様な資源をどのように活かしていくべきかを話し合いました。また、会場では、大学進学を機に関東で暮らし始めた大崎市出身の若者が、故郷を見つめ直し、地域の魅力を再認識していく物語のショートフィルムを上映しました。 **大崎市特別功績者顕彰・大崎市特別感謝状贈呈** 大崎市特別功績者として、長年にわたる本市との交流や、観光PRなどに貢献いただいた、おおさき宝大使で第69代横綱の白鵬翔さん(現・間垣親方)を顕彰しました。また、令和3年1月に「鳴子峡」を発表し、本市の知名度の向上に大きく貢献いただいた、おおさき宝大使の水森かおりさんへ、特別感謝状を贈呈しました。 会場では、2人のビデオメッセージが上映され、場内は温かい拍手に包まれました。